

(様式 1)

2024年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名： 特殊講義II（農産物貿易）
担当教員名：河野秀孝 kawano@b.nebuta.ac.jp
授業科目概要： ボーダレス化が進む今日の社会では、国という枠組みを越え、様々なビジネスの分野においても、また、農産物貿易についても、国際経済に対する認識は必須のものと考えます。マスコミに取り上げられる国際貿易問題として、例えば、各国は世界規模の自由貿易のために努力すべきか、それとも、地域的な貿易協定を推進すべきかどうかの問題や、各国政府は資本や労働の自由な国際移動に干渉すべきかどうか等の問題が新聞やニュースで取り上げられています。本講義では、まず、古典的リカードやヘクシャオリーン等の伝統的モデルを履修し、近年の目覚ましい理論及び実証モデルの発展にも言及しながら、特に農産物貿易問題を例として、実証的かつ規範的分析を進めていきます。政策面では関税や補助金等による貿易政策に焦点をあてます。最後に、金融的側面にも触れ、統一的・論理的分析ができるようになる事を目指します。
履修上の留意事項： まずは、皆さんに論理的思考の楽しさを味わって頂きたい。出来るだけ身近な事例を挙げ、分かりやすく、また、興味を引くように授業の進め方を工夫するつもりです。皆さんへの要望として、経済の諸問題に関心を持ち、少なくとも日本経済新聞の「経済教室」と「やさしい経済学」欄は、毎日読むようにし、授業には積極的に参加してください。難しい授業とも思いますが、頑張ってください。
教科書・参考書（参考文献） J.R.マークセン・J.R.メルビン・W.H.ケンプファー・K.E.マスカス（1999）松村敦子訳 『国際貿易 理論と実証（下巻）』多賀出版 資料の配布。
評価方法及び判定基準： 1回の定期試験（期末）により、成績の総合評価をする。 期末試験： 100% 合計： 100%  評価の基準として、80%以上がA、70%以上がB、60%以上がC、60%未満をFとする。
授業目標及び進め方： 私たちが住んでいる今日の世界は相互依存関係にある国々によって構成され、国際経済に関する諸問題は、日々マスコミのニュースにもなっている。この事は、私たちの日常生活までも、海外から多大なる影響を受けていることを示している。本講義は、日々の私たちの生活への影響を、身近な事例として、特に農産物貿易を考えながら、皆さんが日本を取り巻く国際経済の諸問題を統一的に理解・分析できるようになることを目的とします。 授業をこれまで以上に分かりやすくするために、以下の改善・工夫をします。 1. 具体的例を出来るだけ多くする。 2. 重要なところは反復をする。 3. 各授業のはじめに、前回の講義の要点に関して注意を喚起する。各自の理解度を認識してもらう。 4. 時間があれば、各モデルの講義の後、練習問題を通じて、モデルへの理解を深めてもらう。

(様式 1)

授業スケジュール	
第 1 回	テーマ：序論 内 容：国際貿易の展望と重要性
	テーマ：供給と生産可能性
第 2 回	テーマ：選考、需要、経済厚生
	テーマ：閉鎖経済における一般均衡
第 3 回	テーマ：開放経済における一般均衡
	テーマ：貿易利益
第 4 回	テーマ：貿易利益の定理
	テーマ：交換による利益
第 5 回	テーマ：特化による利益
	テーマ：嗜好の違いによる貿易の分配
第 6 回	テーマ：生産要素賦存の違いによる貿易の分配
	テーマ：復習 I
第 7 回	テーマ：復習 II
	テーマ：国際貿易の原因
第 8 回	テーマ：リカードモデル
	テーマ：ヘクシャー・オリーンモデル I
第 9 回	テーマ：ヘクシャー・オリーンモデル II
	テーマ：特殊要素モデル
第 10 回	テーマ：貿易政策 I 内 容：税と補助金
	テーマ：貿易政策 II 内 容：関税、輸入補助金、非関税障壁
第 11 回	テーマ：貿易と不完全競争
第 12 回	テーマ：規模に関する収穫逓減
第 13 回	テーマ：嗜好・所得・技術進歩と貿易
第 14 回	テーマ：比較優位の実証研究
第 15 回	テーマ：期末試験前の復習
定期試験	期末試験